

Aさんのつながりを 広める取り組み

「誰もいや！」 → 「この人だけ」 から
「あの人とも」への道のり

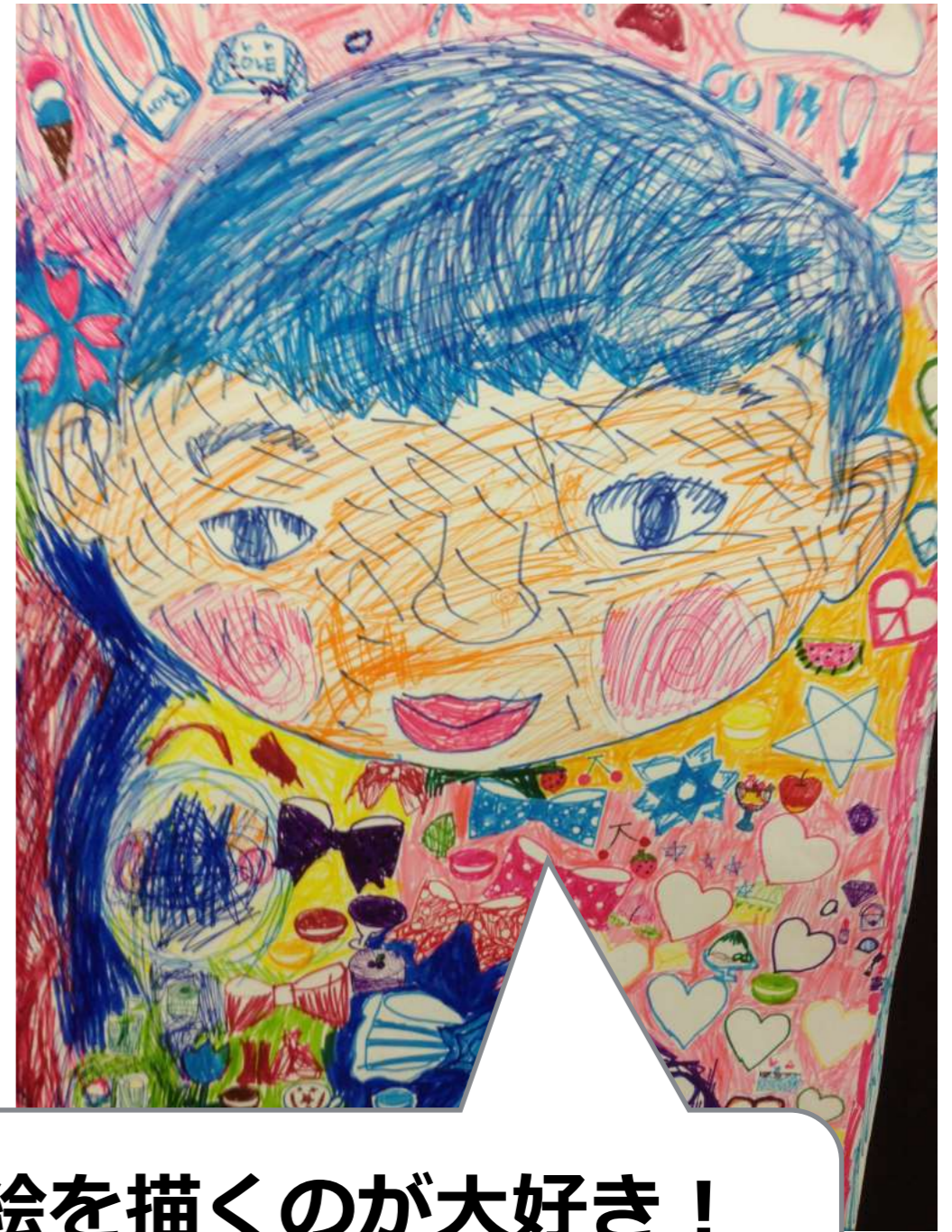
大阪府立和泉支援学校
福井喜章

お伝えしたいこと

- Aさんのこと
- 活動のねらい
- 活動内容
- 1年をふりかえって
今後への見通し

A さんのこと

- 中学部 2 年生女子
中学から支援学校
に入学
- 自閉症も伴う軽度
の知的障がい
- **場面緘黙**



絵を描くのが大好き！
授業で描いた自画像

場面緘黙

- 小学校低学年時代はおしゃべりをしていた
- 学年が進む中で場面緘黙の状態が重くなっていた
- 小学校高学年の時には、学校では誰とも話さない状態になり、不登校ぎみに
- 中学から特別支援学校へ

中学部入学後（「誰もいや!!」時代）

- 入学後も「学校行きたくない」休みがちが続く
- 登校しても、声かけにもあまり反応しない



→唯一の好きなこと「絵を描く」

1人で黙々と絵を描いているAさんに、福井は声をかけ続けた。

Aさんが描いた福井

「似てる!!」と大喜びする姿を見て、満足そうにニコニコしていた
その後、何枚も描いてくれた

中学部入学後（「誰もいや!!」時代）

- 反応が返らなくても、声をかけ続け、Aさんの描く絵をほめた。
- 少しずつ、福井の声がけにだけ反応を返すようになっていった。
 - ・ 一緒にお絵描きをしたり、福井のギャグに声を殺して笑ったり。
 - ・ 誰もいない所で小さな声で話すことも。

→他の先生からの声がけには、依然として下を向いて無反応なことが多かった。

「この人となら」を広げていきたい

- 自分の発信(お絵描き)を受け止め続けてくれた。
- 自分の発信で伝わるものがあった。
- 反応を返せなくてもずっと声をかけ続けてくれた。



自分を大事にしてくれる、大切な人ともっと
関わりたい、伝えたい

この思いを担任B (女性) 次に担任C (男性) へ

そのためには…

- Aさんの発信や思いの共有を支える手段として、
ICT利用が有効であると考えた

その理由

- ・ 代替えの手段が持ちやすい
- ・ 発信の方法の選択肢が多い
- ・ 共有や確認の手段が多様にある
- ・ 携帯しやすく、日常の中で活用できる
- ・ 学校卒業後も使えるスキルへつなげていける

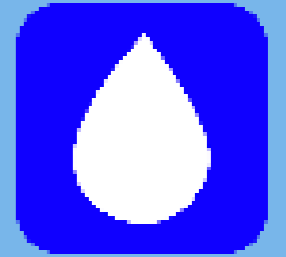
活動のねらい

- 発信を受け止めてもらえる機会を重ねることで、「伝える」ことへの意欲を支えていく。
- 発信の方法を増やすことで、「伝える」場を多様にしていく。
- 信頼できる対象を増やすことで、Aさんの世界を広げていく。

活動内容

①発信を受け止めてもらえる機会を重ねることで、「伝える」ことへの意欲を支えていく。

・絵カードから「DropTalkHD」
→「選択」することから発信のスタート



・「カメラ機能」の活用
→思いを「共有」する手段のひろがりへ



・「パラパラ漫画アニメーター」の活用
→アニメ作りから筆談でのやりとりへ

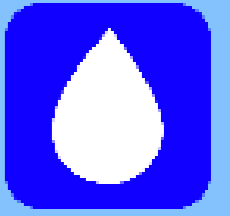


②信頼できる人とのやり取りの場を共有することを通じて、関わりを広げていく

・メッセージ機能、SNS“ByTalk”の活用
→安心できる場の共有からかわりへ

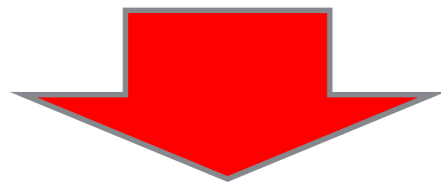


絵カードを使っての活動(1学期)



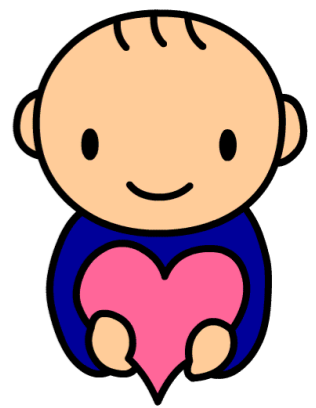
● 終わりの会で使う

- ・ 活動のふりかえりを言うときに、本カードを使用。
- ・ 選択したものを小さい声で読むようになった。



6月、選びたいカードがなく、福井と相談してカードを追加する
(追加したカード)

- ・ いやな気持ちも伝えたい
- ・ 伝えたい感情が増える



絵カードからDropTalkHDへ(2学期)

- ・ 終わりの会での様子 (動画)



- ・ 伝えたい思いが増え、DropTalkHDに移行。
- ・ 楽しかった思いを伝えたいため、アプリの画面をテレビに映し、**自分の声で発表**をするようになった。

絵カードからDropTalkHDへ(2学期)

ドロップトークHDを画面に映すことで思いを共有

友だちが画面を見て、「そうなんやー」と興味津々で
食い入るようにつめていた



Aさんはその反応に喜び、少しずつ笑顔で楽しかった
ことを話すようになった

活動を支えた担任
Cと急接近。

「C先生がいてく
れてよかった」



友だちとの関わりが
増えるきっかけに

「気持ちをわかって
もらえたよ」

カメラ機能を使って(1学期)



- 担任から送られてくるメッセージに添付された写真を見て「写真を使うとよくわかる」ことを体験
- 校外学習時に写真や動画を撮影したものを学校や家庭で鑑賞することで、自分の思いが「伝わる」見通しを持つように



Aさんの撮影の様子



最初に撮影した写真

その後、日常生活の中でも、撮影した写真や動画を添付して送ってくるようになる。



岸和田だんじり祭りの迫力ある動画！

「おもしろい」「すごい」と気持ちが高揚した出来事

「見せたいな」

「知ってほしいな」



画像や動画も使って思いを共有(2学期)

思いを共有できた経験の重なり



自分の思いを伝えたいという気持ちの高まり



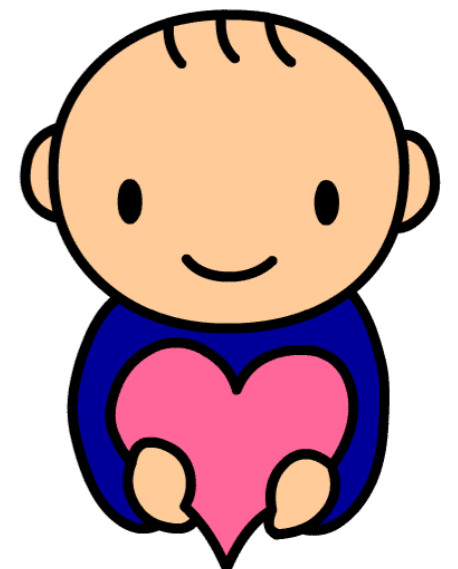
メールが変化

○短文メッセージ ⇒写真、動画付きも

○内容が自分の事のみ⇒親戚の事や家族のこと、自分の住む街で見つけたことなど、話題が広がる



**Aさんの思いを伝える重要なツール
にかわる**



パラパラ漫画アニメーターを使って 筆談がスタート(1学期)



- ・得意な絵を描く活動を通じての関わりを広げるために導入。当初は棒人間のアニメーションを作る。
- ・絵だけでなく文字もいれられないかな?との問いに、「うーん(いいえ)」と言うも書き続ける(動画)

文字でのやりとり

パラパラ漫画アニメーターを使って 筆談がスタート(1学期)



- ・ 答えやすい問いから、次第に好きな物や趣味の話など、内容が膨らむ。
- ・ やりとりの動画を、何回も再生し見返すたびに笑顔がみられるようになる。

→ **担任Bとの関係に変化が見られるように**

変化1 (6月頃)
Aさんの苦手な自転車
乗りの練習を行う



「B先生、とやる！」



変化2 (7月頃)
担任Bの似顔絵を描く



安心できる相手との場を作る(1学期)

- 福井とAさんとの1対1のやりとりの開始



- ・ 日々のかかわりに加え、メッセージを送り合うことで、**相手の状況を思いやる内容を長文**で送るよう

Re:

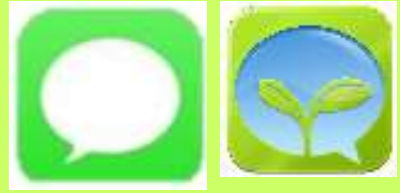
ふくみん、今日病院
行って来たんだいじ
ょうぶ😓ふくみん
いなくってさびしい
かったよ~😞

Re:

姫路市の太陽公園
に、行って来たよ
~(^▽^)ふくみ
んのおみあげ買っ
たよ。

→ちょっとしたことも具体的に文章で「伝えたい」という思いに

担任B、Cも巻き込んで（2学期）



- 2学期からは、学校向けSNS“ByTalk”を活用して、担任B、Cも参加する場を

- ・ 1対複数のやりとりへ変化
最初は福井とのみとのやりとり



担任B、Cとやりとりができるようになり、SNSでの話題から日常の声かけでの話題が増える



嬉しそうな様子で、反応を返すことが増えていった



スタンプを使って思いを伝えるように

友達への思いを広げて（2学期）



- やりとりを重ねていくうちに、内容が変化
SNS内にいない友達を話題に出したり、友達への思いを綴りはじめる。

「みんな」という友だちにむけてのメッセージ

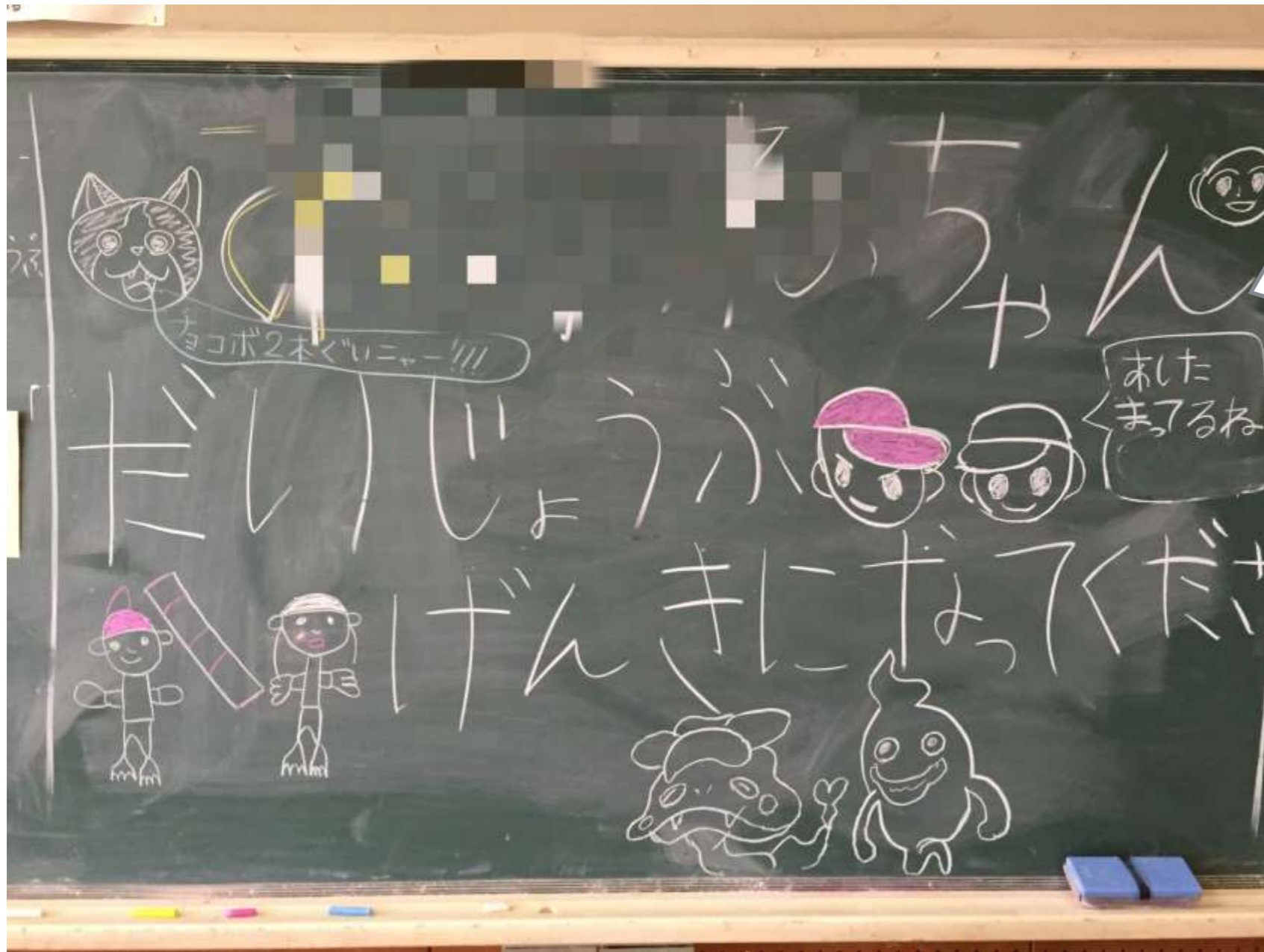
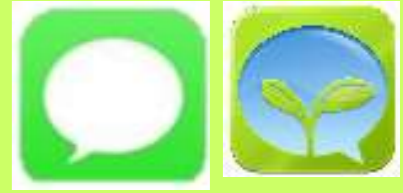
Re:

ふくみん〜**みんな**ごめんね。🙏

運動会前日に送られてきたメール

「みんな」という言葉を使ったのも初めて

友達への思いを広げて（2学期）



Aさんのメッセージを受けて、友達が書いたボードのメッセージ

担任Bがこの画像をSNSで共有
体調不良の欠席後の不安な気持ちを支えた
☆これ以降、友達との関わりが増え始める

1年間をふりかえって

(1) 発信の方法の広がり



「伝わる」体験が「伝えたい」意欲を支える
→ 「伝わる」「伝えたい」が支えられた安心できる「場」を共有することで、関われる対象を広げていく

発信の体験⇒共有の実感⇒関わりを広げる方法を持つ

1年間でふりかえって

(2)かかわりの対象の変化

入学当初：誰の働きかけにも応えず **「誰もいや！」**






4月当初：福井のみとのかかわり **「この人だけ」**






12月：担任B・Cとのかかわり **「あの人も」**

Aさんの発信の場面や手だてを増やし、共有する中で受け止めてもらえた実感から、「安心できる相手」が増えていったのではないかと

5月		思いを伝えてくる	話す	筆談に応じる	意志をジェスチャーで示す	書かれたものを小声で読む
福井		○	○	○	○	○
担任B		×	×	×	×	○
担任C		×	×	×	×	×



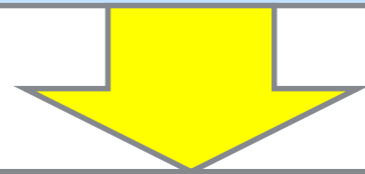
11月		思いを伝えてくる	話す	筆談に応じる	意志をジェスチャーで示す	書かれたものを小声で読む
福井		○	○	○	○	○
担任B		○	○	○	○	○
担任C		×	○	○	○	○

1年間をふりかえって

- 友だちとのかかわりの変化（記録より）

4月・周困からの働きかけに、反応を返せなかった。

- ・友人が話してきた時は、髪の毛で顔を隠して、ひたすらうつむいていた。



11月・終わりの会で友人の言い方をまねしながら楽しかったことを話す姿が見られるなど、学級の中であれば、複数の人の前で話せるようになっている。

- ・生徒会選挙に出馬する友人のためにポスターに絵を描いたり、頼まれて友人が好きなアニメの絵を描いたりする姿が、日常に見られるようになった。

- ・自発的に話したり描いたりする発信が増えている。

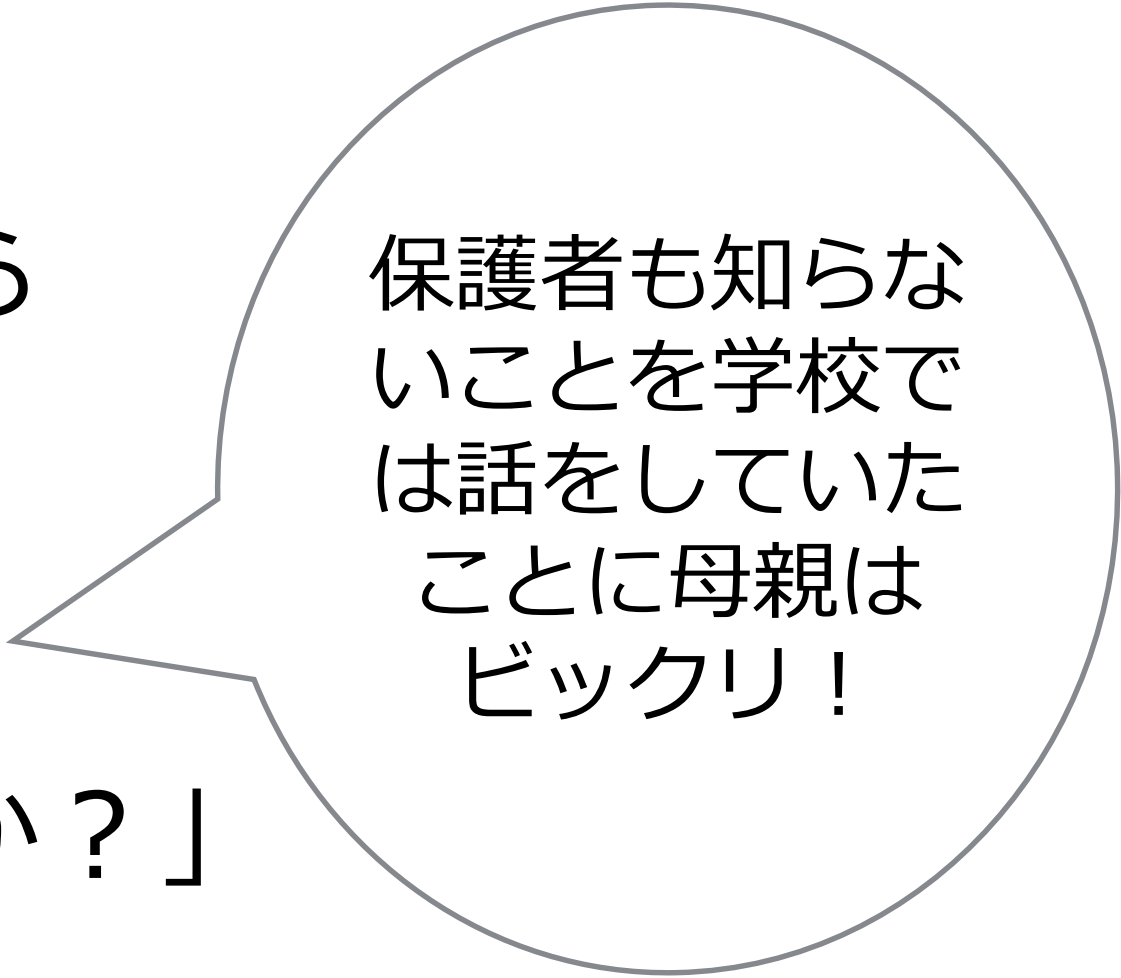
● 友だちとのかかわりのエピソード

担任C

「友だちと歌を歌いながら
帰るんですよ」

保護者

「えっ！？ そうなんですか？」



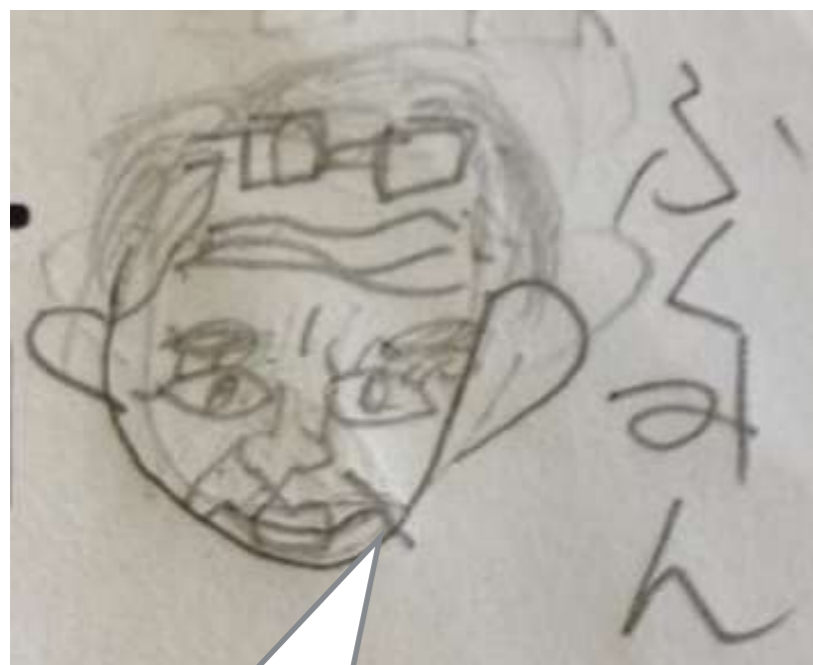
保護者も知らないことを学校では話していたことに母親はビックリ！

● 教師へのAさんからのプレゼント

得意な「絵を描く」(似顔絵)
(頼んでも描いてくれません。Aさん
さんから「はい」と渡されます)



わかってくれて
ありがとう！
という気持ちを
込めて



福井



担任B



担任C

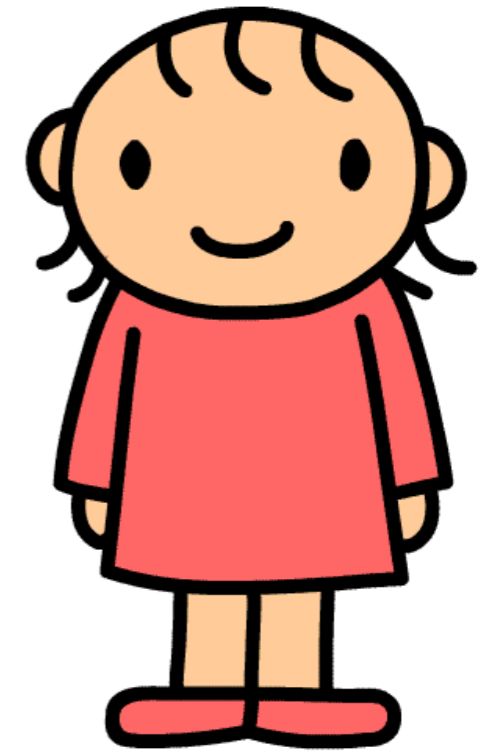


前年度担任

- 今後について

Aさんの

- ・ **人への信頼**
- ・ **発信できる自分への見通し**



の窓をさらに開いて、関われる場や人を広げていきたい

SNSの活用を職場体験等の場にも広げていくことで、社会に出た時も使える手だてにしていく

ありがとうございました

jj3vev@me.com

大阪府立和泉支援学校 福井喜章